

LARGE DAMS

大ダム

巻頭言 エネルギーの安定供給に資する水力発電であるために

ICOLD2025成都 参加報告

ICOLD技術委員会活動内容の紹介 (TC-N)

随 想 埋没するダム屋からの脱却

日本大ダム会議 会員紹介

No.273

2025-10



一般社団法人 日本大ダム会議
JAPAN COMMISSION ON LARGE DAMS

一般社団法人電気土木技術協会

1. 協会概要

当協会は、水力発電が日本の主力電源であった1952年(昭和27年)に任意団体「発電水力協会」として設立され、1960年通商産業省(当時)により社団法人として認可されました。その後、電力土木技術者の活動分野が水力発電以外の火力、原子力、送配電施設などに拡大したことに伴い1977年「電力土木技術協会」と名称変更し、現在に至っています。

現在の会員数は、法人会員が電力会社、建設会社、コンサルタント、機器メーカー、日本大ダム会議様等関連団体、大学図書館等多岐にわたり約300社、個人会員が約3,000名となっています。

2. 現在の活動

当協会の活動は、経済社会情勢の変動の中で時代の要請に対応するため大きく変化してまいりました。現在の主要な活動は以下のとおりとなっています。

(1) 会誌「電力土木」の発行

1952年11月発行の創刊号以来、今年9月発行の439号まで2ヶ月に一度、会誌「電力土木」(創刊当時の誌名は「発電水力」、1992年8月に「水力百年記念増刊号」)を発行し、会員の皆様にお送りしています。

現在、会員の皆様による「論文」、「報告」を中心に、学識経験者による「総説」、その時々話題の事項について数号にわたり連載する「講座」、先輩方による「電力土木回想」及び「海外だより」などを掲載しています。



最近の会誌「電力土木」

(2) 講習会、研修会等の開催

電力土木技術者の皆様に技術情報等に関する知見を得ていただくための講習会や研修会を実施しています。具体的には、以下のような活動を行っています。

- 「講演と見学会」: 実際の建設現場等を訪れ、その施設に関する講演を聞いた後に現場の見学。(年2回開催)
- 「電力土木講習会」: 水力発電のほか、火力、原子力、送配電線等電力土木に関するテーマの講習(1テーマ約30分、全部で約20テーマ。年1回開催)を実施。近年は動画配信の形で、都合の良い時間に視聴できるようにしています。

- 「若年・中堅技術者研修会」: 各社の若手、中堅の社員が参加し、それぞれが自分の業務等につき発表し、意見交換。(年1回)

この他、電気事業法により水力発電所の工事・維持管理に当たり選任が義務付けられている「ダム水路主任技術者」を育成するための講習の実施機関として経済産業大臣に登録されており、この講習も毎年実施しています。

(3) 関係図書の編集、発行

電気事業法に基づく「発電用電力発電設備に関する技術基準を定める省令」を補足する水圧鉄管や水門扉に関する技術基準の他、関係図書を各分野の専門家による委員会を設置し編集、発行しています。

これらの図書は、水力発電関係者のみならず農業用施設や港湾施設などの多くの関係者にも活用されています。

(4) 電力土木技術に関する功労者の表彰

電力土木技術への貢献者に対し以下の3種類の表彰制度があり、年一度春の社員定時総会の後に表彰式を行っています。

- 「高橋賞」: 会誌に掲載された論文等の中から優れたものに対し、故高橋三郎名誉会長の功績を記念して送られるもの。年間3件程度。
- 「技術奨励賞」: 満36歳以下で、特に創意工夫に富むと評価される技術によって貢献された方を対象とするもの。年間3名程度。
- 「電力土木技術協会賞」: 永年にわたり電力土木業務に従事し、その功績が顕著な方を対象とするもの。年間70名程度。



今年の電力土木技術協会賞受賞者の皆様

3. 今後の取り組み

当協会は、70年余りにわたる水力発電をはじめとする電力土木技術情報を有しています。一方、近年のデジタル関連技術の進歩と普及は目覚ましいものがあり、こうしたツールを活用しつつ、当協会の有する情報の付加価値を高めて発信するなど当協会ならではの取り組みを進め、微力ながら社会に貢献してまいります。